

うえのどのびへんじ
上野殿御返事

すいかにしんじょう
(水火二信抄)

御書新版 1871年11行目、1872年2行目
御書全集 1544年9行目、11行目

そもそも、今の時、法華経を信ずる人
あり。あるいは火のごとく信ずる人もあ
り、あるいは水のごとく信ずる人もあり。
聴聞する時はもえたつばかりおもえども、
とおざかりぬればすつる心あり。水のご
とくと申すは、いつもたいせず信ずるな
り。これは、いかなる時も、つねはたい
せずとわけ給えば、水のごとく信ぜさせ
給えるか。とうとし、とうとし。

通解

さて今の時、法華経を信ずる人がい
る。あるいは火のように信ずる人もいて、
また水の流れるように信ずる人もいる。
(火のように信ずる人というのは、法門
を) 聴聞する時は燃え立つように思うけ
れども、時が経つにつれて、それを捨て
てしまう心を起こしてしまふ。水の流れ
るように信ずる人というのは、常に退す
る心を持たずに信ずる人をいう。
あなたは、いかなる時も常に退するこ
となく私(日蓮)を訪ねられるのである
から、水の流れるように信じられている
のであろう。尊いことである、尊いこと
である。

語句

聴聞

仏の教え、説法を聞くこと。